

## 連絡会議活動報告

- ① カーボンニュートラル（ネットゼロ）・・・ p 1
- ② パンデミックと社会・・・・・・・・・・・・ p 6
- ③ 国際基礎科学年・・・・・・・・・・・・ p 9



# 日本学術会議 カーボンニュートラル(ネットゼロ)連絡会議 活動概要



2022年4月18日

## 「カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議」 設置の背景と趣旨

2021年6月24日記者会見資料

### カーボンニュートラルの実現をめざす日本、世界の動き

- 日本:「2050年にカーボンニュートラル社会の実現をめざす」。2050年目標と統合的で、野心的な目標として、「2013年度から46%削減することを目指し...さらに50%の高みに向けて、挑戦を続け」る
- 2021 G7サミット(2021年6月):「世界の平均気温の上昇を1.5度までに抑える」「遅くとも2050年までのカーボンニュートラル(ネットゼロ)の実現」が目標として共有、長期目標と統合的な2030年目標の設定と対策の実施に合意

2050年カーボンニュートラルの実現には、エネルギー、建築物、交通を含むインフラ、産業などにおいて急速で広範囲なかつてない規模の社会の変革・移行が必要

- **最新の科学に基づき、技術の革新と普及を促し、広範な政策導入、投資の拡大が求められる**

**中長期的な視角をもって、学術の諸領域が連携・協働し、総合的、俯瞰的な検討が必要となる課題が少なくない。学術が果たす役割は大きい**

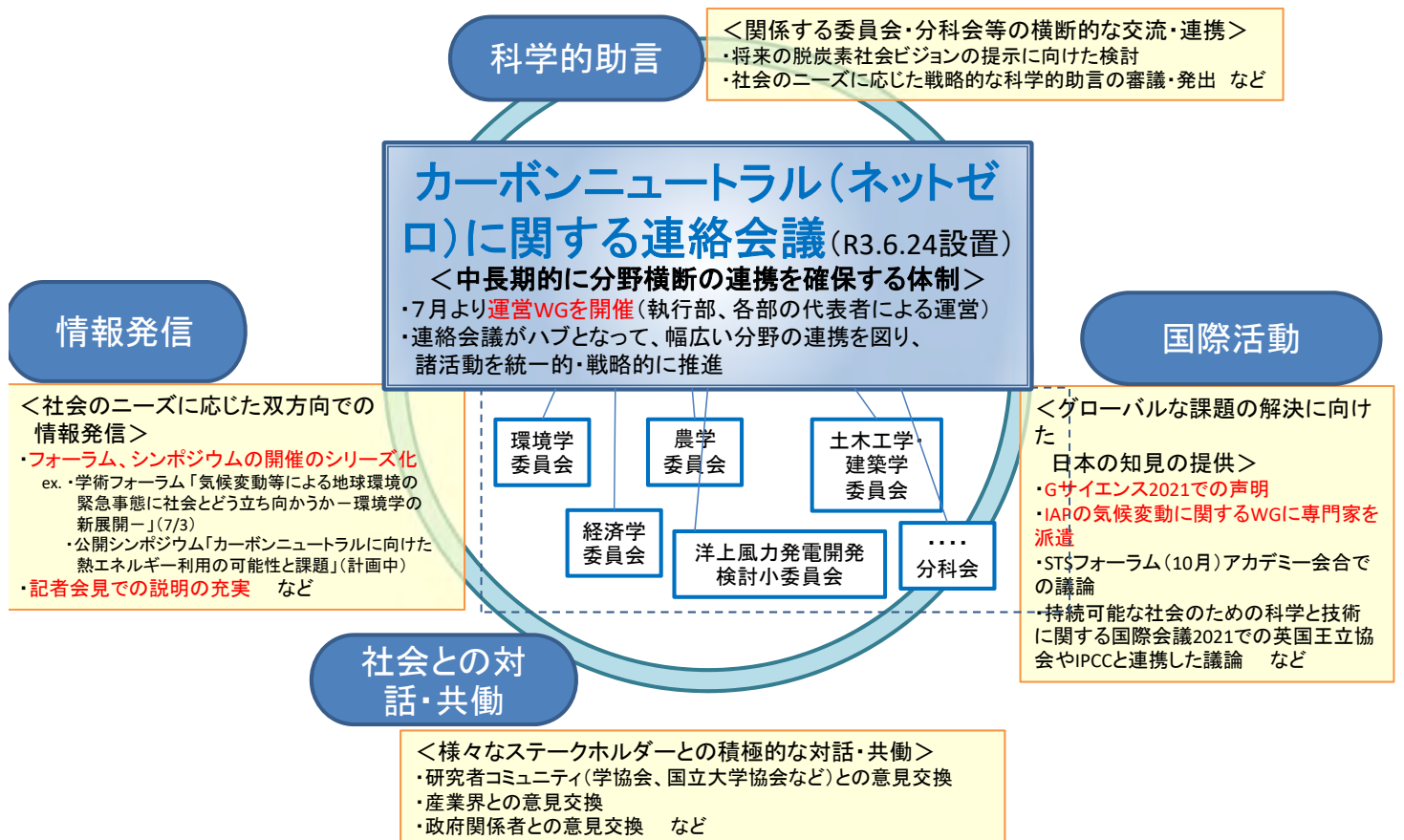
**2021年Gサイエンス学術会議(2021年3月)でも「ネットゼロと気候変動影響に備えた未来」についてG7各国政府に対して提言**

# これまでの主な活動

- 2021年6月：連絡会議の設置
- 2021年7月：運営WGの設置
- 2021年9月16日：第一回連絡会議開催
- 第一、二、三部から80を超える委員会、分科会が参加
- カーボンニュートラルへの取組みに関するHP立上げ  
[https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/carbon\\_n/index.html](https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/carbon_n/index.html)
- ロゴの作成
- 2022年3月13日：学術フォーラムカーボンニュートラルシリーズの第1回開催

カーボンニュートラル実現に向けた学術の挑戦 ～システム転換を目指して

## 日本学術会議のカーボンニュートラルの取組みイメージ



# 第25期日本学術会議におけるカーボンニュートラル(C.N.)活動の俯瞰図 ～ カテゴリーA～Hと主要キーワード ～

## A. 地球・気候変動・気象・災害関係 (大気・海・陸、計測・観測、シミュレーション)

- 1.気候システムの解明・観測・予測・気候変動の影響、2.成層圏・対流圏、
- 3.濃度計測、4.観測プラットフォーム、5.シミュレーション・予測、6.海洋酸性化・ブルーカーボン、7.地球温暖化、8.激甚災害、9.土地利用・土地利用変化・林業、10.食料安全保障、11.地球環境観、12.プラネタリ・バウンダリ

## F. C.N.とのトレードオフと相乗効果

- 1.生物多様性保全、2.資源・材料の循環利用、3.安全・安心・レジリエンス、4.社会的受容、5.健康・公衆衛生、6.大気汚染

## E. 包括的アプローチ、ビジョン、社会変革、制度設計・政策、企業活動、人間行動

- 1.フューチャー・アース、2.環境学・環境教育、3.技術的開発戦略、4.社会・経済ビジョン、5.世界と日本の施策、6.サーキュラーエコノミー、7.グリーンフレージョン、8.制度設計・法・政策、9.企業行動・組織経営、10.企業倫理・社会責任投資、11.経済的手法(税・排出権取引)、12.循環デザイン、13.土地・国土、14.国際ガバナンス、15.人間行動・行動変容、16.生活デザイン、17.社会変革・合意形成

## B. C.N.エネルギー (一次エネルギー、二次エネルギー)

- 1.エネルギーのポートフォリオ、2.電気・電力、3.風力・太陽光、4.原子力、5.バイオマス、6.水素、7.アンモニア・メタネーション、8.未利用熱エネルギー

## C. 特定分野のC.N.化の取組み

- 1.食料・食料生産流通・フードシステム・食品ロス、2.医療・歯科、3.材料・素材、4.住宅・建築・都市、5.自動車・鉄道、6.海洋・船舶・航空・宇宙、7.情報・通信・コンピュータ、8.生産・ものづくり、9.カーボンフットプリント

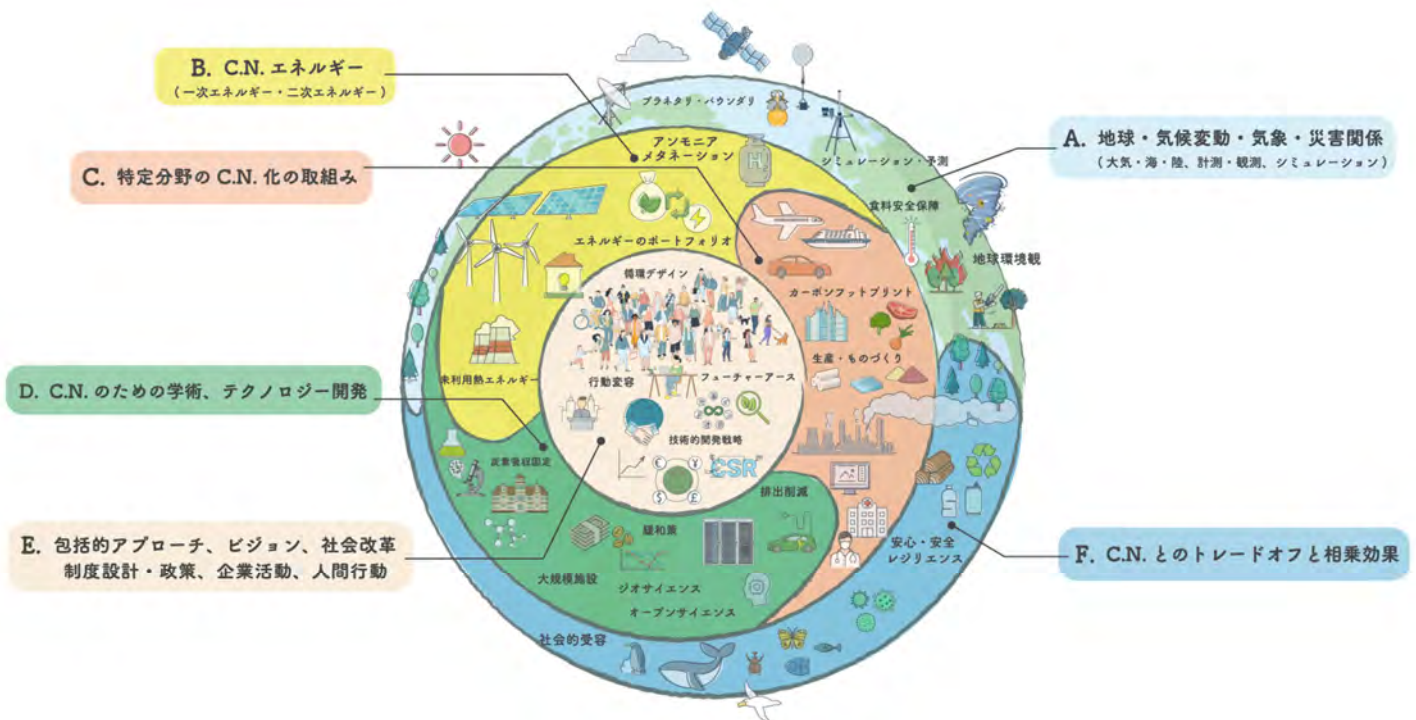
## D. C.N.のための学術、テクノロジー開発

- 1.炭素吸収固定、2.排出削減、3.緩和策、4.材料・素材、5.物理・化学・数理学等、6.経営・金融、7.システム・シミュレーション・可視化、8.大規模施設、9.電力系統等のシステム制御、10.オープンサイエンス、11.ジオサイエンス

## G.学協会連携

## H.国際連携・国際的プレゼンス

# 日本学術会議におけるカーボンニュートラル(C.N.)活動の俯瞰デザイン





日本学術会議主催学術フォーラムカーボンニュートラルシリーズ 7

2022年  
**3月13日(日)**  
13:00 ~ 15:45

オンラインによる開催  
参加費/無料

お申込み  
[https://form.cao.go.jp/scj/opinion\\_0110.html](https://form.cao.go.jp/scj/opinion_0110.html)

お問合せ  
日本学術会議事務局  
企画課学術フォーラム担当  
TEL/ 03-3403-6295



カーボンニュートラル社会の実現に向けた  
学術の役割と課題を論じ  
関心のある人が  
カーボンニュートラルに関わる課題を  
俯瞰できる場とする

学術の挑戦

システムの転換を目指して

全体司会/丹下 健 日本学術会議第二副議長、東京大学副学長・大学院農学生命科学研究科教授

1 カーボンニュートラルと学術の課題……13:00 - 13:15  
▶はじめに  
梶田 隆幸 日本学術会議会長、東京大学宇宙線研究所教授  
▶企画全体の導入・閉会の報告、COP26の報告  
高村 ゆかり 日本学術会議副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授

2 パネルディスカッション1 「最新の気候科学の知見と課題」……13:15 - 14:15  
モデレータ：三枝 健子 日本学術会議会員、国立環境研究所地球環境研究センターセンター長  
▶IPCC WG I 第6次評価報告書の概要と課題  
藤原 雅浩 東京大学大気圏外研究科教授  
▶「気候変動と健康」  
梶川 真弘 東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教授  
▶「カーボンニュートラルの転換：長期的な見直しと課題」  
藤原 真一郎 京都大学大学院工学研究科教授

休憩……14:15 - 14:30

3 パネルディスカッション2 「カーボンニュートラル社会へのシステム転換」……14:30-15:30  
モデレータ：吉村 啓 日本学術会議第三部長、東京大学副学長・大学院工学系研究科教授  
▶「カーボンニュートラル社会のためのセクター別の技術・政策開発と研究の役割」  
田中 知奈子 産業技術総合研究所エネルギー・環境基礎ゼロエミッション研究戦略総括企画主幹  
▶「カーボンニュートラルに貢献する土地利用と農林業政策の最適化とは？」  
北島 真 日本学術会議会員、京都大学農学研究所教授  
▶「カーボンニュートラルに向けた経済社会の転換」  
藤原 真 日本学術会議副会長、京都大学大学院経済学研究科・地球環境学学長

4 まとめと今後の展望……15:30 - 15:45  
高村 ゆかり 日本学術会議副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授

主催/日本学術会議  
企画/カーボンニュートラルに関する連絡会議運営ワーキンググループ

## 連絡会議 国際的な連携・発信

- 国際学術団体を通じた/他国アカデミーとの国際的連携、国際的発信
  - Gサイエンス2021:「ネットゼロと気候変動影響に備えた未来」についてG7各国政府に対して提言
    - <http://www.scj.go.jp/ja/int/g8/index.html>
  - インターアカデミーパートナーシップ(IAP):気候変動×生物多様性のWGに専門家が参加、提言をまとめる
  - STSフォーラム(科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム) 2021 アカデミープレジデント会議(2021年10月4日): "The effects of climate change on the ocean and the polar regions"
  - 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2021(2022年1月31日、2月1日):カーボンニュートラル(ネットゼロ)をテーマに、英国王立協会副会長をはじめ、中国、英国、ドイツの研究者の参加を得て開催
  - Gサイエンス2022でもテーマの一つとなる予定

# 今後の活動予定

## 1. HP充実・活用

- (1) 連絡会議参加の委員会・分科会等の活動内容の掲載
- (2) 俯瞰図の各カテゴリーの専門家によるショート動画掲載

## 2. C.N.シリーズの学術フォーラムの企画

## 3. 連絡会議参加の委員会・分科会等の連携活動に向けた自律的コミュニケーションの促進

## 4. 委員会・分科会と協力・連携した意思の表出等

# 日本学術会議 パンデミックと社会に関する連絡会議



2022年4月

## 「パンデミックと社会に関する連絡会議」の活動について

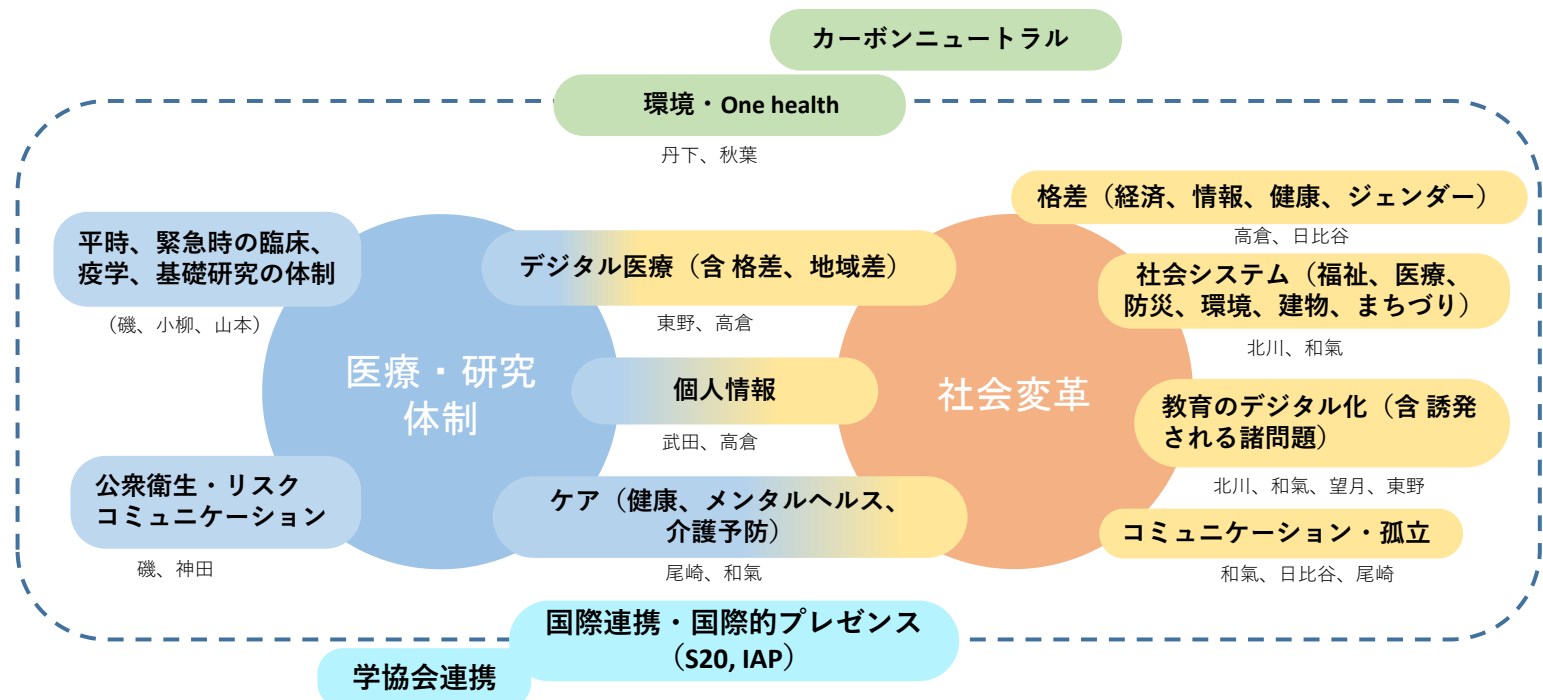
### これまでの連絡会議の活動状況

2021年7月29日	パンデミックと社会に関する連絡会議を設置 ※世話人：望月副会長、世話人補佐：武田第二部長
2021年9月～10月	分野別委員会・分科会等（以下「関係委員会等」）に対して参画希望調査を実施 →その後も随時参加を受け付けており、2022年4月時点で69の委員会・分科会及び若手アカデミーが参加
2021年12月1日	第1回連絡会議を開催し、テーマごとのワーキンググループを順次招集し、検討を開始することを決定
2021年12月29日	「平時、緊急時の臨床、疫学、基礎研究の体制」ワーキンググループ（第1回）を開催 ・・・関係委員会等の委員長を招集し、WGの趣旨・目的を説明。次回のWGでは関係委員会等からテーマに即した適任者を推薦してもらうことを決定
2022年2月9日	「平時、緊急時の臨床、疫学、基礎研究の体制」ワーキンググループ（第2回）を開催 ・・・課題抽出のためのヒアリングを行うことを決定。ヒアリング候補者について議論を行った。
2022年3月	「平時、緊急時の臨床、疫学、基礎研究の体制」ワーキンググループにおいてヒアリングを実施（3月1日、3月16日、3月23日、3月30日の4回）

### ※その他

- ・連絡会議コアメンバーによる会合を3回開催。
- ・「平時、緊急時の臨床、疫学、基礎研究の体制」WG世話人打ち合わせを3回開催。





( ) 内はWG世話人  
それ以外は連絡会議コアメンバーの担当者  
を記載

「平時、緊急時の臨床、疫学、基礎研究の体制」ワーキンググループ

主な検討課題

新たな治療薬・ワクチン・医療機器などをパンデミック時に早期に社会に提供できるようにするための体制整備 (法改正、制度改正も含む)

役員及び参加委員会等

世話人代表：磯博康      世話人補佐：小柳義夫、山本晴子  
(参加委員会等) 第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会、総合微生物科学分科会、生物物理学分科会、免疫学分科会、臨床研究分科会、看護学分科会、パブリックヘルス科学分科会、歯学委員会、基礎系歯学分科会、病態系歯学分科会、臨床系歯学分科会、医療系薬学分科会、分析化学分科会

活動の内容

課題の抽出のため、学術会議内外の専門家からヒアリングを実施 (2022年3月)

日程	氏名	職名
3月1日	中込 和幸	国立精神・神経医療研究センター理事長
	高尾 昌樹	国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部部长
	岩田 充永	藤田医科大学救急医学・総合内科学教授
3月16日	鈴木 康裕	国際医療福祉大学副学長
	小柳 義夫	京都大学ウイルス再生医科学研究所所長・教授
	藤原 康弘	独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長
	磯 博康	大阪大学大学院医学系研究科教授
3月23日	中村 春木	大阪大学名誉教授
	山田 秀人	医療法人溪仁会手稲溪仁会病院不育症センター長 兼 オンコロジーセンター ゲノム医療センター長
	原田 明久	ファイザー株式会社代表取締役社長
3月30日	澤田 拓子	塩野義製薬株式会社取締役副社長
	磯部 哲	慶應義塾大学大学院法務研究科教授
	高倉 弘喜	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所教授
	石井 健	東京大学医科学研究所感染・免疫部門ワクチン科学分野教授

今後の予定

まだ実施できていない行政関係者へのヒアリングも踏まえ、年内に意思の表出を行う予定

# 新型コロナウイルス感染症に関する公開講演会（2021年12月～2022年3月）

開催日	名称
2021年12月11日	公開シンポジウム「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み—子育てをしながら働き、働きながら暮らすための地域共生社会」
2021年12月21日	公開シンポジウム「ポストコロナ時代に求められる公衆衛生人材」
2021年12月23日	公開シンポジウム「プラスチックのガバナンス：感染症制御のための衛生環境管理と資源循環」
2021年12月 5日	公開シンポジウム「コロナ禍における人間の尊厳—危機に向き合って—」
2022年 1月25日	公開シンポジウム「コロナ禍での感覚器障害のリスク」
2022年 2月 5日	学術フォーラム「コロナ禍を共に生きる04 [新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown#3] 「新型コロナウイルス感染症の予防と治療 Up-to-date そして変異株への対応」
2022年 2月 6日	学術フォーラム「コロナ禍を共に生きる#5 感染症をめぐる国際政治のジレンマ 科学的なアジェンダと政治的なアジェンダの交錯」
2022年 3月15日	学術フォーラム「コロナ禍を共に生きる#6 ウィズ／ポストコロナ時代の民主主義を考える：「誰も取り残されない」社会を目指して」
2022年 3月21日	公開シンポジウム「新型コロナウイルス感染拡大がもたらした日本の食と農をめぐる経済・社会問題」
2022年 3月25日	学術フォーラム「COVID-19時代のデータ社会とオープンサイエンス」

# 「持続的発展のための国際基礎科学年(2022~2023)」



国連決議(2021.12.2)に基づく国際年

[国際IYBSSD 委員会プレスリリース]

「人類にとって高い価値をもつ基礎科学に対する世界的な認識を高め、教育を強化することが、持続可能な発展を達成し、世界中の人々の生活の質を向上させるために不可欠であるとの認識の下、国連総会が全ての加盟国、国連の組織、その他…すべての組織に対し、各国の優先事項に従って、持続可能な発展のための基礎科学の重要性を認め、認識を高めるよう呼びかけるものです。」

「国連総会の決議は、「人類にとっての基礎科学の価値の高さ」と、「持続可能な発展を達成し、世界中の人々の生活の質を向上させるためには、基礎科学に対する世界的な認識を高め、教育を強化することが不可欠である」という認識のもとにおこなわれました。「基礎科学と新技術は、情報へのアクセスを提供し、個人、コミュニティ、社会の健康と福祉を向上させることによって、人類のニーズに答えている」ことを強調しています。この2年間、COVID-19パンデミックに対する世界的な闘いの成功と困難は、生物学、化学、物理学、数学、人類学などの基礎科学の重要性をはっきりと示してきました。」

発展途上国、ダイバーシティ、イノベーション、地球的課題における科学の役割、市民との対話、政策決定などを重視

## 学術会議の対応について



- 令和3年5月 15委員会・分科会で学術会議として一体の取り組みを要望
- 「基礎科学」ということばを狭くとらえず、広く科学の有効性が認知される機会としたい。

「持続可能な発展のための国際基礎科学年2022 (IYBSSD2022) 連絡会議」

参加状況：当初38委員会、分科会等（現在は分野別委員会が中心）

開催実績：連絡会議 1回（令和3年11月22日）

運営WG 4回（16名：会員6名、連携会員10名）

学術フォーラム企画WG 3回（12名：会員2名、連携会員10名）

広報WG 2回（10名：会員2名、連携会員7名、小委員会1名）

企業連携WG（今後開催）

- 運営WG 全体的な推進体制の協議 国際的な活動との連携 協賛団体のweb掲載等の審議
- フォーラムWG 連絡会議として開催するフォーラムの企画
- 広報WG
  - 広報体制 Webページの構成について審議
  - フライヤー 広報ビデオ の内容について助言

# IYBSSD の「日本ノード」として国際年の周知、ロゴの配布等を実施

IGsから見た日本学術会議		若手アカデミー
7学術会議SCA		日本学術会議における男女共同参画の取組み
地方学術会議		パンデミックへの取組み 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19特設ページ)
来からの問い		各国際学術団体の活動
ラールへの取組み		国際基礎科学年 ～持続可能な世界のために～

HOME 日本学術会議とは 提言・報告書 一般公開イベント 委員会の活動 地区会議の活動 国際活動 会員・連携会員等 協力学術研究団体

日本学術会議 トップページ > 持続可能な発展のための国際基礎科学年 (IYBSSD)

## 持続可能な発展のための国際基礎科学年 (IYBSSD2022)

2021年12月2日に開催された国連総会において、2022年を「持続可能な発展のための国際基礎科学年 (IYBSSD) (The International Year of Basic Sciences for Sustainable Development)」とすることが決議されました (令和4年 (2022年) 6月30日から令和5年 (2023年) 6月30日までの1年間)。この取組みは、持続可能な発展のための基礎科学の重要性を認め、認識を高めるよう呼びかけるもので、日本学術会議は、IYBSSDサポート機関として、本国際年に関する国内の取組みを推進します。

「持続可能な発展のための国際基礎科学年 (IYBSSD)」の決定について (PDF形式: 212KB) PDF

(参考) IYBSSD国際事務局 (英語ページ)

### 協賛機関の募集、ロゴマークの使用について

日本学術会議は、関係学協会をはじめとした国内機関の皆様と協力して、本国際基礎科学年を盛り上げて参りたいと考えております。国際基礎科学年の趣旨に賛同いただける学協会、大学、企業、団体等は以下のフォームから登録をお願いします。なお、協賛機関に寄付等の金銭的なご負担をお願いすることはございません。今後、基礎科学年のロゴマーク等の取得方法、国際イベントや、学術会議で開催される関連イベント、協力学協会主催のイベントについて、お知らせする予定です。

また、関連するイベントでのロゴマークについては、本ページよりロゴ (日本語版・英語版) をダウンロードできるようにする予定です。

協賛機関の登録

ロゴマーク使用登録  
(関連イベント登録)

協賛機関の登録

ロゴ使用登録 (2月から)  
(100以上の学会、団体から登録)

持続可能な発展のための国際基礎科学年 (IYBSSD) 連絡会議

## 学術会議 キックオフフォーラム



学術会議キックオフ 7/29 12:30～

登壇者(予定)

ご挨拶

- 梶田隆章(会長)、小谷元子(東北大学理事 副学長 ISC次期会長)、内閣府(交渉中)、文科省(交渉中)、経団連副会長 篠原弘道、JST (交渉中)

講演・登壇者

- 全体説明:野尻美保子 (連絡運営会議 高エネルギー加速器研究機構)
- 学術の立場:田中啓二 (東京都医学総合研究所理事長, 文化功労者、分子生物学)、藤田誠 (東大、紫綬褒章, 合成化学)
- イノベーション:長我部信行(日立 応用物理)、長井志江(東大 IT)
- 地球環境:北島薫(京都大学 生物多様性)
- 市民との対話:駒井章治 (東京国際専門職大学、元若手アカデミー委員長)
- 人文社会科学:一ノ瀬正樹 (東京大学名誉教授・武蔵野大学, 哲学)、小林佳世子 (南山大学 経済学)、青木玲子 (公正取引委員会 経済学)
- モデレーター 高橋真理子(ジャーナリスト)、滝順一 (日経)

・来年6月にクロージングフォーラム (1年間のアクティビティを俯瞰)

# 会員の皆様へのお願い



- **分野別・課題別分科会の連絡会議への参加やIYBSSDの学術フォーラム、シンポジウム企画**

特にダイバーシティ、地球的課題における科学の役割、市民との対話、政策決定などに関する活動

例 令和4年 9月8日学術フォーラム「性差に基づく科学技術イノベーション（仮）」

- **関連機関（学協会、大学・研究所、博物館 企業、団体等）への周知**

- **関連機関のIYBSSDへの協賛登録**（学術会議のホームページから登録可能）

協賛==[IYBSSDについて主体的にイベント等をの活動を計画していただくこと]

（学術会議と共同で何かをすることを願うわけではありません。金銭負担なし。）

今後運営WG で審議後 ホームページにリストとして掲載。特設ページ等へのリンクを貼ることが可能。（現在100程度登録あり）

- **ロゴの使用**

→学術会議のロゴダウンロードページから登録・ダウンロード可能（報告の必要があるので必ずご登録ください。）